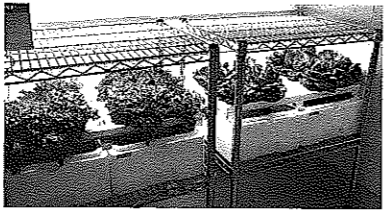


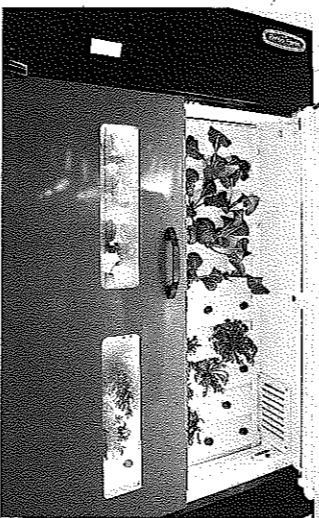
株式会社HRD
 本社工場/鳥取市津ノ井300番地1 TEL 0857-51-7700
 若葉台ラボラトリー/鳥取市若葉台南7-1-1
 産業技術センター内第4起業化支援室
 TEL 0857-50-0027
 資本金/3,000万円
 従業員数/82名
 会社の目的/電気機械器具製造、弱電気部品の加工及び組立、
 EMS・OEM、LEDの開発・製造・販売
 ホームページ/http://harada-denki.jp/



商品検査の様子

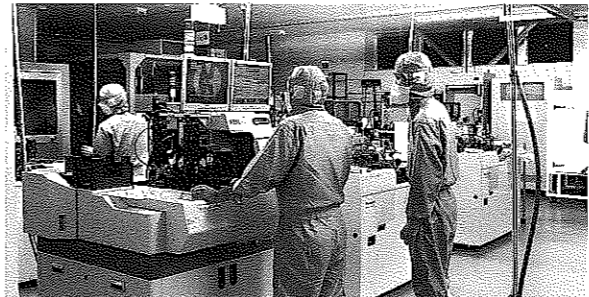


本社内の植物工場実験施設



植物育成用LEDを使った野菜栽培

Uターン、Iターン、Jターンによって、現在、山陰両県内で活躍のみならず
 まに山陰地方の魅力や将来像などについて語っていただくコーナーです。
 Uターン：都市部に住んでいた人が故郷に戻ること
 Iターン：故郷に関係なく地方に移り住むこと
 Jターン：都市部に住んでいた人が故郷近くの都市に移り住むこと



LED生産工場内の様子

原田 宣明

株式会社HRD 代表取締役



先進のLED開発と積極的な地域貢献で ふるさと企業大賞を受賞

鳥取市でLEDランプの開発に早くから取り組み、自社ブランド製品として製造販売し、企業規模は小さいが性能と品質はトップクラスとして知られるのが、㈱HRDである。近年では自社で開発した白色LEDと電球色LEDの成功を機に、鳥取大学との共同研究や鳥取市内の照明メーカーとの共同開発など、地元の技術を活かす独自路線を積極的に目指している。このHRDを率いるのが原田宣明社長である。創業は昭和四十七年。当時は弱電気部品組み立てが主業務で、社名も「原田

電機製作所」といった。創業時は鳥取三洋電機の協力工場として、ガステーブルコンロ、プリント基板セット、小型精密モーター、カメラのストロポ用電子回路などさまざまなOEM生産、アッセンブル生産を行ってきた。LEDランプの製造もそうしたアイテムの一つとして昭和五〇年代から取り組んできており、その製造・開発のノウハウの蓄積は三〇年近くに及んでいる。最近では高演色性（色の再現性に優れた）LEDの開発や植物育成用LEDの開発など、機能性LEDの開

ことにしたのです。会社に取締役として入社し、翌年一二月に社長に就任しました。三二歳のときです。従来の組み立て製造業がだめなら、経験の深いLEDランプを自社で開発し、自社のブランドとして展開していかうと考え、その方向に舵をきりました。それから一〇年になります。

それまでは取引先から材料をもらって組み立てるばかりの仕事だったのを、自社で製品を開発し自社ブランド商品としてお客様に売るという全く逆の流れに変えたという、大きな決断だった。LEDランプメーカーというのは大企業ばかりで、国内では二〇社程度しか存在しない。したがってHRDは国内最小のメーカーと原田社長はいう。「小さな企業が大企業間の競争に巻き込まれず独自路線を歩むには？」と考えると、答は自ずと出てきた。ニッチマーケットの開拓である。

まず、自社方式の白色LEDと電球色LEDを平成一五年に成功させた。鳥取大学との共同研究や鳥取市内の照明メーカーとの共同開発などにも挑んだ。「これからますます需要の高まるLED市場に対応していけるよう業態を改め、用途の限られた部分照明や、照らすだけでなく光に付加価値のある照明など、機能性LEDの新規開発でニッチマーケットに挑んでいく」と原田社長は言う。

ずっと続く企業をめざして

HRDが誇る自社開発製品のひとつが植物育成LEDだ。植物生産工場の光源に使われるものだが、従来の製品は発熱の問題で野菜と光源との間に一定の間隔をとる必要があり、生育効率の悪さと大がかりな空調設備がコスト増につながっていた。

HRDの製品は発熱をほぼゼロに抑えており、光源をより野菜に近づけることができ、冷却や空調のコスト減を実現。光合成にだけ有効なコストを削減し「PPFD」では、従来製品を大きくしのぐ結果を出すなど、まさに植物育成の機能に特化したLEDランプとなった。

他にも機能性LEDとして期待されているのが、高演色性LEDで、光の三原色を使って白く発光させることで対象物の色が正確にわかることから、医療用として高いニーズがあるという。「私が先代から引き継いだときの会社の経営状況は非常に厳しかったんです。ただ良い会社にはしようという気持ちは強く持っていました。では良い会社って何だと考えると、それは「続く会社」だろうと。お客様から仕事をいただけることが続き、それによって雇用が続き、社員が働き続けることができる。この三つをいかに実現していくかをずっと考えてきました」

原田社長はその策の一つとして昨年、㈱HRD IDEALを立ち上げた。H

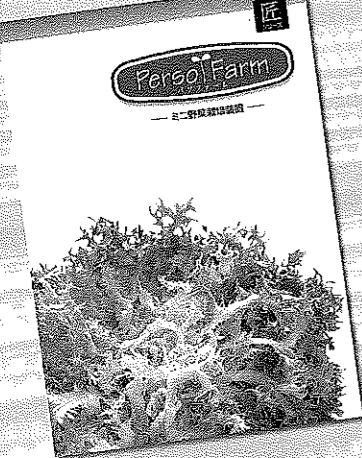
発、製造、販売を得意とし、LED業界で注目を集めている。「かつては当社のような組み立て製造業も事業環境は良かったのですが、八〇年代からはずっと逆風です。以前は鳥取三洋電機からの仕事だけで経営できていたのが、しだいに難しくなってきたため、父はあちこち別の仕事を探しました。しかし組み立ての仕事は次々に海外へと流出していく最中で、それを止めようもなかったのです。その頃私は、大阪の建築プランニング会社に勤めた後、社会修業のため妻とともにアメリカに住んでいました。そのときにあの米国同時多発テロが起き、ショックを受け、それをきっかけに父の会社を立て直すため鳥取に帰

RDの関連事業を行うとともに、植物生産工場を稼働し、野菜や果物などの生産販売を行う会社で、障がいがある人に働いてもらい、「ノーマライゼーション（障がいがある人も健常者も共に助け合って暮らしていくのが正常な社会とする考え方）の地域づくり」を目指すと。収穫されたものは「IDEAL野菜」として鳥取市内のスーパードで販売するほか、地元の飲食店などで使ってもらう。自社の持つLED技術と福祉を合体させた「地産地消」の継続事業を創出するモデルである。

こうした取り組みや地元機関との連携が評価され、「二〇一一年度ふるさと企業大賞（総務大臣賞）」に選ばれた。「地方にありながらHRD独自の技術を開発して事業展開していることや、障がいがある人も含めた雇用をつくり出し、それをずっと「続ける」ことを目指しているのが評価されたのだと思っています」

目下の課題は、仕事量のばらつきを波を、自社製品の質を高めることで平均化し乗り切ることと原田社長。高い技術力で性能と質の優れた機能性LEDの可能性を追求する日々は続く。

ミニ野菜栽培装置のパンフレット



Profile

原田 宣明

1972年鳥取県岩美町生まれ。鳥取東高校から帝京科学大学に進み、バイオ（遺伝子操作テクノロジー）を学ぶ。卒業後は大阪の建築プランニング会社に勤務した後、社会修業の目的で米国へ。その滞在中に米国同時多発テロ事件が発生。米国で長男を授かり、30歳のときに帰国。鳥取にUターンし父の会社に取締役として迎えられ、翌2003年12月社長に就任。